

令和 5 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中学 2	学校名	県立太田第一高等学校附属中学校						課程	—		学校長名	谷津 勉				
教頭名	[全日制] 茂又 孝裕			[定時制] 渡邊 俊之			[附中] 小濱 靖彦		事務 (室) 長名			横山 弘実					
教職員数	教諭	11	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手	0	事務職員	5		技術職員等	10	計	31
生徒数	1年			2年			3年			合計				合計 クラス数			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							
	20	20	20	20	20	20	60	60			3						

2 目指す学校像

グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む学校

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 学習における理解度に個人差が見られ、習熟度や少人数など、生徒一人一人の理解度に応じた支援・指導が必要である。保護者アンケート (教員はわかりやすい授業を展開していると聞いている。) 80.0% 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導や習熟度別指導を実施するにあたり、生徒一人一人の実態把握に努め、上で柔軟に対応するとともに、適切な個別指導体制・学習支援体制を構築すること。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を通して、自己の可能性を発見し、将来の夢に向かって今の自分に必要なことを考え、判断し、実践していく力をつけることが必要である。保護者アンケート (進路に関しての指導・面談がよく行われている。) 65.9% 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の指導方針の改善・充実を図るとともに、実践的・体験的な活動の充実を図ること。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係をうまく構築できない生徒が、友達とトラブルになることが多い。保護者アンケート (教員は生徒に対し、公平に接している。) 78.8% 	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動の未然防止及び早期発見・対応に努めること。 特別な支援を要する生徒への理解と指導体制の充実を図ること。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 学級や学年、学校全体をよりよくしていこうとする意識が向上し、思いや考えをしっかりと持っている生徒が増えている。保護者アンケート (教員は生徒に対し、 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを効果的に活用し、自己の活動を振り返り、新たな目標や課題について考えることができるように自主的・自発的な活動を進めること。

	公平に接している。) 82.4%	
働き方改革への取組	・教職員の意識は向上しているが、仕事量が多く、年間を通して月 45 時間以内に抑えられない教員がいる。	・分掌を見直し、組織として機能する体制を整え、業務の効率化を図り、教職員の心と体の健康を維持しながら勤務できる環境をつくること。

4 中期的目標

<p>(1) 中高一貫教育校のよさや強みを生かし、中高連携の強化と 6 年間を見通した教育課程に基づく深い学びの実現に努める。</p> <p>(2) 心の教育と体験活動を大切にして、豊かな人間性と自主性・自立性・自発性の育成に努める。</p> <p>(3) 探究を軸とした学びのスタイルの質を高め、課題解決能力の向上に努める。</p> <p>(4) ねらいを明確にして ICT を効果的に活用することで、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進する。</p> <p>(5) 様々な体験活動を通して、グローバル社会で活躍するための資質・能力を育成する。</p> <p>(6) 協力して取り組む体制を整え、業務の効率化を進め、生徒一人一人に寄り添う指導の実現に努める。</p>
--

5 本年度の重点目標

	重点項目	重点目標
(1)	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の確実な習得を図るための繰り返し学習の充実 生徒一人一人の理解度に対応した習熟度別授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストや学習アプリを活用した学習理解度の把握と個に応じた指導を実践する。 学習到達度目標を明確にし、学習過程を工夫した習熟度別授業を実践する。 <p>保護者アンケート（教員はわかりやすい授業を展開していると聞いている。）85.0% (R4 80.0%)</p>
(2)	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動のあらゆる場面で、コミュニケーションの場や体験的な学習の重視 教育活動のあらゆる場面で、自分の考えを伝える場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 「探究プロジェクト」や「中高連携活動」を活用し、他校の生徒や高校生・異学年の生徒たちとの意見交換による課題解決を体験する。 様々な活動において、生徒同士で話す・伝える場を設定し、自分の考えを伝えることができる。 <p>生徒アンケート（生徒同士の対話や、教員との質疑応答の機会を設けている。）92% (R4 88.4%)</p>
(3)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性を生かした探究的な学習の充実 教員同士の授業参観を通して授業改善への積極的な取組 各教科における生徒の授業満足度の向上 	<ul style="list-style-type: none"> すべての授業において、年間を通して探究的な視点を取り入れた授業を実践する。 各教員が毎月 1 回以上は、他の教員から気づき・学びを得ることを目指す。 各教科における生徒の授業満足度 90% を目指す。 <p>生徒アンケート（生徒が課題を設定し、議論し、解決策を考えることができる時間を設けている。）85% (R4 82.9%)</p>
(4)	<ul style="list-style-type: none"> 従来の指導にベストミックスさせる ICT の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> 各教員がそれぞれの授業において、ICT を意図的・効果的に活用することにより、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進する。 <p>生徒アンケート（コンピューターやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫</p>

別紙様式 1 (中)

		している。) 80% (R4 75.4%)
(5)	<ul style="list-style-type: none"> 実践的な英語コミュニケーション能力の育成 段階的な異文化理解体験を通して、国際教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 中学3年終了時点で、英検準2級相当の生徒の割合 50%を目指す。 各学年の体験活動に取り入れ、段階的に実践していく活動を通して、英語力とコミュニケーション能力の向上を図り、異文化理解を深める。
(6)	<ul style="list-style-type: none"> 1か月平均超過勤務時間数の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 協力体制を再構築し、業務の効率化を推進するための具体的な方策と工夫を行う。 1か月平均超過勤務時間数を 45 時間以下にする。(全職員)